

障害者の生涯学習

～共生社会の実現に向けて～



私たちにできること
たくさんあります

知ること

機会・場をつくること

共に活動すること

伝えること

生涯学習について

生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や、自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。

(中略)

人々が共に学び、協力し、励まし合って生涯学習に取り組んでいくことで、家庭や職場や地域が生き生きと活気にあふれ、充実し、発展していくことが期待される。

※平成4年7月29日 生涯学習審議会答申
「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」

いつでも	どこでも
なんでも	だれでも

障害があってもなくても生涯学習の理念は同じです。

◆共に学び、広がる世界

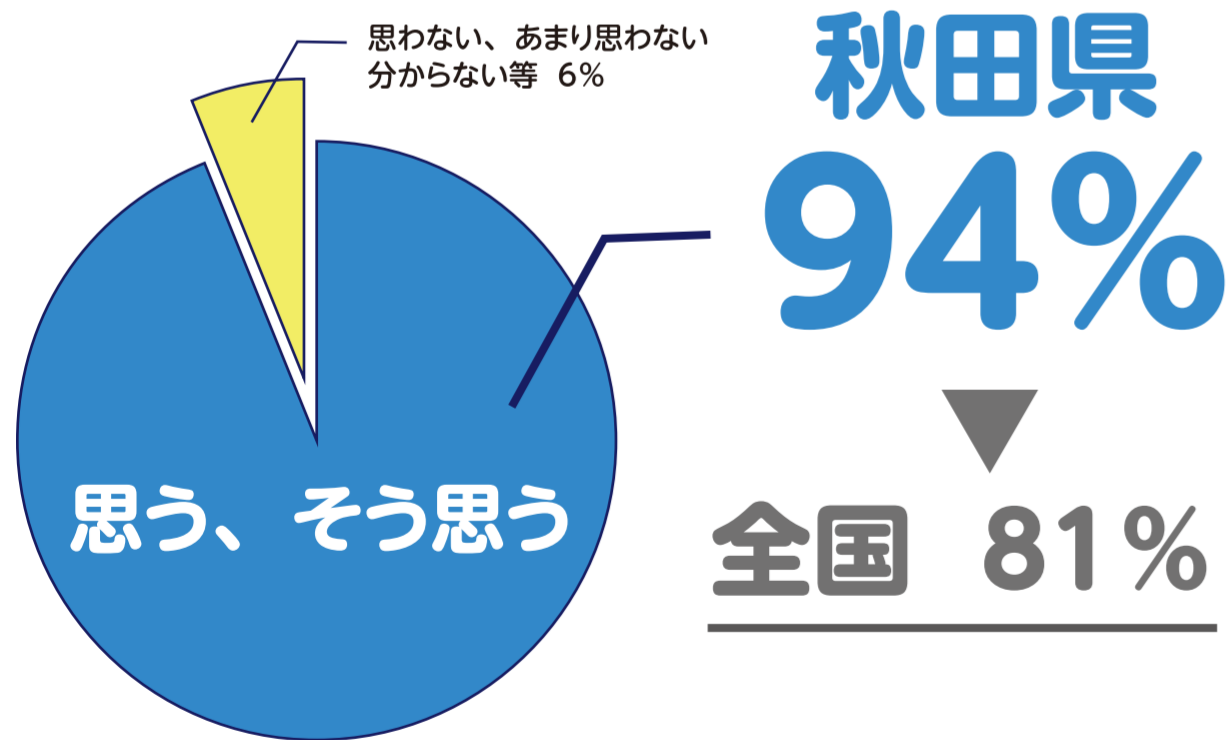
文部科学省が公開している障害のある方の生涯学習の動画です。(右のQRコードからリンクします)



文部科学省



Q 障害のある方の生涯学習の機会は必要だと思いますか？



「生涯学習の機会が大切」という保護者の方の思いは、全国平均を大きく上回りました。

◆そこで秋田県生涯学習センターは・・・

- ① 当事者の話し合いの場をつくり・・・
- ② ニーズ調査を分析し・・・
- ③ 地域のモデルとなる講座、研修を企画し・・・
- ④ 人、地域のつながりを目指し・・・

CHECK! 裏面をご覧ください。
障害者の生涯学習充実のためのヒントがあります。



当事者の声はとても大切です。

生涯学習に関して**思**いを伝え合う機会

「**熟議**」を行いました。

R3オンライン熟議 テーマ

「どうしてもっと学びやすくなるのか」

オンラインで話し合った内容

「私のやってみたいこと」
「私にとって大切な学び」
「どうしてもっと学びやすくなるのか」

熟議で大切にしていること

- ・意見を話す、聞く
- ・目標を共有する
- ・自分にできることを考え、話す

◆オンライン熟議の参加者

- ・特別支援学校高等部生徒
- ・特別支援学校卒業生
- ・特別支援学校卒業生保護者
- ・生涯学習奨励員
- ・社会人（障害のある人、ない人）
- ・公民館職員



オンライン熟議の様子

人とのつながりは大切。だからコミュニケーションは大切だと思う。



特別支援学校高等部生徒

自分たちで相談して(イベントなど)つくってみたい。



特別支援学校卒業生

「まずはやってみる」という気持ちを大切にしてほしい。



生涯学習奨励員
公民館職員

自分に何ができるのか、何をすべきなのか、改めて考える、いい機会となりました。



特別支援学校卒業生保護者

あなたの地域での熟議体験は、秋田県生涯学習センターにご相談ください！

詳しくは
◇秋田県生涯学習センター
「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査





共に学ぶ機会を生み出すために あなたができることは？

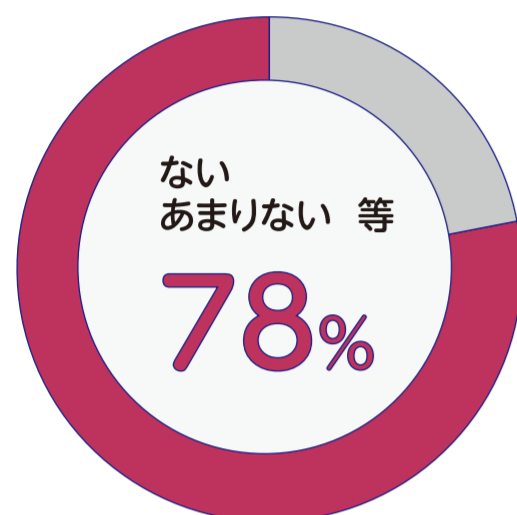
①「知ること」 ②「機会・場をつくること」 ③「共に活動すること」 ④「伝えること」 など たくさんあります。

①「知ること」

ニーズ調査から、障害者の生涯学習の課題が見えてきました。

情報

Q 身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか？（在籍状況別）



● 全国平均を下回った項目

Q 必要な情報がありますか？

- ・知りたいと思うことがあるとき
- ・文化や芸術に触れたいとき
- ・体を動かしたいとき
- ・仲間と学び合いたいとき

各項目10%程度全国を下回る

全国と比べて、情報がないと感じる人が多いと言えます。

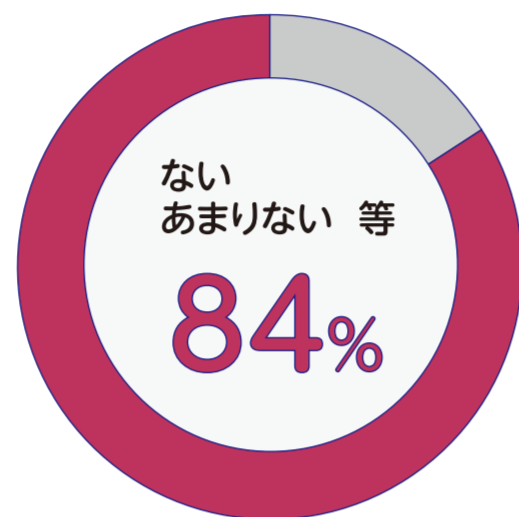


在学中は何かしら情報がありますが、卒業すると全くありません。

保護者の声

仲間・プログラム

Q 仲間と学び合う場や学習プログラムは身近にありますか？（地区別）



● 生涯学習の取組 例



● 秋田県生涯学習センター あきたスマートカレッジ（写真は防災講座）

モデル講座として実施 地域への波及へ期待

● 特別支援学校
映画鑑賞、調理、バーベキュー
成人を祝う会 等

● 就業・生活支援センター
職業生活・社会生活のスキルアップ
情報交換の機会

対象は登録している方 参加者の固定化、周知の仕方などが課題

取組はあるが、各地域で、いつでも、誰でも参加できるプログラムや、共に学ぶ仲間は十分ではない現状です。



本人がやりたいと思っても、場所・仲間がない。

保護者の声

バリア

物理的・精神的

公共の交通手段が少ない。外出移動は一人では困難。

大人用折りたたみベッドがほしい。いろいろな段差。



学習塾やスポーツ教室などで障害を理由に断られたことがあり、以来、障害者を対象としたイベント以外は行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えたとありがたいと思う。

大きな声を出したりすることで、他の人の迷惑になるのではないかと心配、外出がおっくうになる。本人は出かけたいようだが、それにつきそう保護者の負担は年々大きくなる。



調査報告書には、バリアに関するたくさんの声が挙げられています。

②「機会・場をつくること」 ③「共に活動すること」 ④「伝えること」 協働は、共生社会の実現にも結び付くと考えられます。自分にできることをイメージし、身近なことから始めませんか？

学びの機会や場をつくり、つながろう



みる・しる

当事者の声、ニーズはとても大切です。身近な資源も見えてみましょう。

- ◆ 熟議
- ◆ 個別相談
- ◆ アンケート等

くふうする

全てを新しくするのは大変です。今まで行ってきたことを工夫し、少しずつ新しいものにしていくのがおすすめです。



令和2年度 市町村職員、公民館等職員研修「街歩き」 お店に入る、道路を渡るなど、ミッションにチャレンジする研修でした。

やってみる

障害のある方、ない方が一緒に学ぶ活動を行っていきましょう。経験することは大きな自信になります。



令和3年度 あきたスマートカレッジ「防災講座」 障害のある方、ない方が一緒にポリ袋でご飯を炊く経験をしました。

つながる

いろいろな人たちがつながっていくことが、共生社会に結び付いていくと考えます。



令和3年度 「第2回あきた With 杯ポッチャ交流大会」 県内企業21社にスポンサーとなっていた だき、ポッチャを楽しみました。



障害者の生涯学習支援 モデル事業の取組について

能代市、由利本荘市、湯沢市、潟上市の各事業所では、次に紹介している講座の他、様々な内容の生涯学習講座を行っています。また、秋田大学でも障害のある方を対象とした講座を行っています。

能代市中央公民館（能代市）



令和3年6月19日（土）
場所：能代市中央公民館
「押し花で小物作り」

NPO法人 達い（由利本荘市）



令和3年10月23日（土）
場所：由利本荘市文化交流館
カダーレ
「食育講座」

複合施設ばあとなあ（湯沢市）



令和3年11月13日（土）
場所：湯沢グランドホテル
「はじめてのスマートフォン・タブレット講座」

潟上天王つくし苑（潟上市）



令和3年7月17日（土）
場所：潟上天王つくし苑
「流しそうめん体験」

